



第309号
2022年5月27日

愛教労NEWS

愛知県教職員労働組合協議会

県教委交渉要求書「持続可能な働き方を！」



5月13日（金）愛教労は、2022年度前期の県教委交渉に向けて、要求書を県教委教職員課に提示。教職員課小中人事担当課長大江氏に愛教労岩澤議長が、手交しました。要求の主な項目は次の通りです。

「再任用ハーフ勤務者2人で1学級の担任としないこと」
「勤務の割振り簿が整備されない場合でも、割振り変更は必ず行うこと」
「教員免許更新制により失効した免許を再発行するしくみを整備すること」
「教職員評価制度について市町村立学校の教員について、県立学校と同様の苦情申し立て制度を整備するよう通知すること」
「地域部活動への移行について県としての方針を示すこと」

6月末ごろに交渉を実施し、県教委から責任ある回答を得ていきます。

穴がどんどん拡大!?教育は穴だらけ

現在、教員不足が深刻です。最近では校務主任が担任を持つことも増え、年度途中の産休などは代替教員が確保できないことは珍しくありません。文科省によると2021年4月現在の愛知県全体における欠員数と割合は、小学校57人（3.7%）中学校50人（10.0%）であり、年度途中にどんどん穴が広がっていきます。

穴を埋めることはある程度は可能です。それは、定年退職者への依頼です。（全員が依頼に応じれば、穴は簡単に埋まります。）しかし、ここ数年、タブレット端末を利用した授業、小学校英語など新しい仕事が増え、長時間残業が漏れなくついてくるので勘弁してくれと、皆言います。しかも、現役同様に働いて給料3割減では引き受けたいとは思いません。

愛知県では335人の定年前退職者（他県への異動を含む）そして19人の死亡により、2020年は354人が教育現場を去りました。この流出を止めれば少しは改善するはずですが、愛教労で行っている交渉・話し合いでも教育委員会側からは有効な手立ては示されていません。もし、残業がないならばもっと講師・再任用を引き受ける人は出るはず。やはり、働き方を聖域なしで抜本的に見直しが必要ではないでしょうか。

〔幹事 堀口〕

事務所住所：〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-26 大須土方ドリームマンション 801
TEL：052-242-4474 FAX：052-242-2938 HPはこちら
Mail：aichi@aikyourou.jp URL：http://www.aikyourou.jp/ QRコード▶



#NO WAR #STOP WAR

戦争反対！暴力反対！